

学校だより



稲荷台

令和6年4月30日

5月号

横浜市立稲荷台小学校

1年生と一緒に

校長 中山 正之

朝夕にはまだひんやりとした空気を感じますが、日中は暖かさが増してきました。さわやかで過ごしやすい季節になってきました。商店街の入り口にある藤棚にも花がそろそろ咲く頃です。新年度が始まって4週間、学校では半袖の子ども達の姿が増えてきました。校内を歩くと、どの教室からも活気が感じられ、子ども達と先生達の笑顔がとても印象的です。

4月以来、毎朝正門で子ども達を迎えています。子ども達の「おはようございます」の声がとても元気で、しかもたくさん聞こえてきます。あいさつが習慣づいている2年生以上の子ども達はもちろんですが、1年生達のあいさつの元気の良さにも驚かされています。私や横断歩道で誘導している工藤先生にしっかりと顔を向け、明るい声であいさつをする様子はとても微笑ましく、私達もうれしくなります。門を開けている時間は10分ほどですが、その短い間に私達は一日の活力をもらっているように感じられます。

そして登校時にあいさつの他に感心していることがもう一つ、それは高学年の姿です。最初の週に登校班で通ったことがきっかけになったのか、1年生と連れ立って登校する5・6年生が実にたくさん見られます。手をつないでいる子達、数人で一人の1年生を大事に囲むように歩いてくる女の子達、前に立ってずんずん歩く1年生に付き従うように見守っている男の子達など、歩く姿は様々ですが、年上の子が年下の子を大切にしようという気持ちが大変よく伝わってきます。もちろん、きょうだい仲良く一緒に登校する子達もいます。下の1年生の子は満面の笑顔なのに上の子が少し仏頂面だったりすると、思わず「がんばれお兄ちゃん。」と声をかけることもあります。毎朝のこうした光景から、どの学年の子も1年生の入学を喜んでいることが感じられ、温かい気持ちになります。

登校時だけでなく6年生達はまた、校内でも1年生のお世話に熱心に取り組んでいます。朝の準備、中休み、給食の片づけ時など、毎日かなりの頻度で通っています。この活動を通して1年生は学校生活のルールを6年生から学び、一日の流れを次第に覚えていくようになります。そして6年生は学校で一番年下の子達と接することで、相手を第一に考えて行動することを学び、思いやりや優しさを育んでいきます。この活動では1年生の成長もさることながら、私達はむしろ6年生の大きな成長を期待しています。実際、1年生との交流を経た6年生は毎年素晴らしい成長を見せています。一人一人の言動に落ち着きや穏やかさが見られるようになり、自主的に行動するようになります。そしてなによりリーダーシップが育ちます。自分達が小学校のリーダーなのだとは自覚するようになります。現在お世話に取り組んでいる6年生達にも、その兆候が表れてきているように感じます。どんなリーダーに育っていくのか、とても楽しみです。